

CLOSE UP

クローズアップ

金城学院大学 国際情報学部 国際情報学科  
庫元 正博 教授

1953年神戸生まれ。大阪大学文学部哲学科卒業後、大手広告会社でコピーライター、CMプランナー、クリエイティブディレクターとして広告企画、立案を手がけ、商品の企画、デザインや企業のブランディングなどに携わる。2010年より金城学院大学教授。専門は広告、マーケティング。研究テーマは「名古屋CM」。

# 自分で考え、企画できる力を養い、 リーダーとなって活躍できる人に

長年、広告業界の最前線で広告キャンペーンの企画、制作に携わり、多くの実績を残されてきた庫元正博先生。  
金城学院で教鞭を執りはじめてからは、学生たちのために豊富な学習環境を創出し、優秀な人材を育ててくれました。  
ゼミでは多様な産官学連携プロジェクトでの実践を通して、マーケティングの発想とプロジェクト実現への道筋を教えながら、  
「自分の未来を主体的に考えて歩む力を身につけてほしい」と願い、日々、指導にあたられています。

## Ⅰ 詩作に傾倒した青年時代、「書く仕事」をめざし広告業界へ

高校はテニス部と文芸部に所属していた、文芸部では詩を書いていた。大学に進んだあとも詩を書き続け、大学時代に2冊の詩集を自費出版しました。しかし大学5年次にバりにホームステイした際、詩や哲学だけではなくもっと広い世界を見ようと考えが変わり、書くことが仕事になる職業を模索した結果、コピーライターをめざすことにしました。

大手広告会社に就職し、約7年間コピーライターの仕事に携わりました。その後はCMプランナーや、クリエイティブディレクター、管理職も兼務しました。こうした中、仕事の一貫として

金城学院大学のマスコミプログラムの授業を受け持ったことがきっかけで、本学へ移り教員となりました。

学生たちは1年生でマーケティング論、2年で広告論、3年で消費者行動論

を学びます。これを学んだ学生の実践的な場がゼミです。意識調査、分析、理論的なまとめを行うのと同時に、学生の感性を活かした内容で企業へ新商品などのプレゼンテーションを行います。

## Ⅱ 企画ができるだけでなく、リーダーとなれる企業人に

広告は科学的な要素と感性的な要素が必要です。物事を論理的に考える力と、それに縛られない感性を持ち、面白いことを真面目に、熱意を持って企画し、実行できる。そういう人をめざす学生がこのゼミに集まってきます。

今、教育現場では産学連携やPBL

(Project Based Learning)が注目されていますが、このゼミでやっていることはまさにアクティブラーニングを通じたPBLです。私はゼミ生全員に1年のうちにいずれかのプロジェクトのリーダーを割り当てます。与えられたプロジェクトを成功させるためには何が必要で、リーダーの役割は何なのかを自覚してもらうことが目的です。全員がリーダー

を経験すれば、リーダー以外のときはどうすればリーダーを支援できるかわかるようになり、助け合うことで、チームとしての信頼関係が生まれます。社会に出れば、男女関係なく求められるのはリーダーです。企画と同時にプロジェクトリーダーが担える人、またリーダーを支えられる人を育て、世の中に送り出すことが私の役割だと思っています。

また仕事に取り組む上で大事なものは、「仕事はすべてがオリジナルでクリエイティブである」という思いを持つことができるかどうかです。企画の仕事だけではなく、営業も販売もクリエイティブな要素、オリジナルな要素はいくらでもあります。そこで自分の力を発揮できる人になってほしい。大学での学びと実践を通し、自ら考える企業人、企画できる企業人になってもらいたいと願っています。

### 庫元先生はどんな人!?

ゼミの3年生に庫元先生の印象を伺ったところ、「プロジェクト進行中は厳しく、普段は優しく接して下さいます」「各々の性格をよく捉え、それぞれに合った教え方をして下さいます」との声が聞かれました。また、「実戦的でとても勉強になります」との感想も多く、学生から信頼され、熱心に指導に当たられる先生のお人柄が窺えました。

